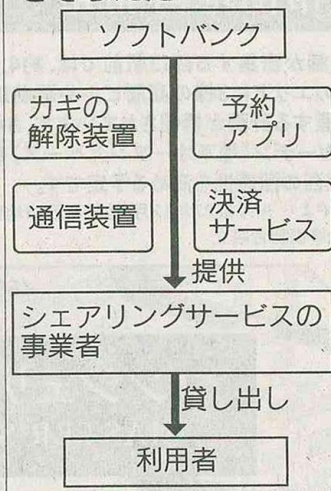


ソフトバンクはシェアリングサービスに取り組む企業向けのIT（情報技術）事業に参入する。あらゆるモノがインターネットにつながる「IoT」の技術と携帯通信網を活用し、遠隔操作できる鍵やスマートフォン（スマホ）の予約アプリなどを提供する。第1弾として、シェアサイクルの事業者向けサービスを11月に始める。

## 相乗り・民泊「シェアエコノミー」

# ソフトバンク IT で参入

シェアリング事業に必要な装置やサービスをそろえた



きる遠隔操作の鍵と解除に必要な暗証番号の入力装置を開発した。予約や決済に必要なスマホアプリ、会員管理のクラウドサービス（GPS）を搭載。貸し出し・返却拠点などの自転車台数が常に

## まず自転車カギ・アプリ

分かる仕組みも取り入れ、待機台数がなくなつた拠点では自転車の貸出料金を一時的に引き下ろす。矢野経済研究所（東京・中野）によると、シェアリングサービスの国内市場は2020年度に15年度の2倍以上の600億円に拡大する見通し。現状では自転車1台当たりの初期費用が10万円以上とされている。ソフトバンクは電動バイクなどのシェアサービス向けにも事業を広げるほか、関連サービスでの海外展開も目指す。

ことができるという。駐車場予約サイトを運営するシェアリングサービス（東京・新宿）が11月に、ソフトバンクのサービスを利用するシェアサイクルを東京都内で始める。